

# パオちゃん's EYE

2024年8月1日 発行 No.89

## セミの抜け殻標本



倉敷で見られるセミの抜け殻標本

上段左から、クマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ。  
下段左から、ツクツクボウシ、ヒグラシ、ハルゼミ、チツゼミ。

8月に入ると、あちらこちらにセミの抜け殻が目立つようになります。これは、セミが幼虫から羽化したときのもので、殻ですから虫本体ではないのですが、セミの抜け殻は昆虫の脱皮殻としてはとても丈夫で、それぞれの種の特徴となる形を残しています。したがって、抜け殻であっても標本にして残すことができます。それどころか、抜け殻の方が良いこともあります。成虫のセミは飛び回って移動しますが、抜け殻は育ったその場所に留まります。しかも、しばらくは全個体分の抜け殻が残りますので、種類ごとにどんな木が好きか、どのくらいの数が生息しているか、調べることができます。そして、生きている虫を殺さずにできる昆虫採集としても初心者の方におすすめです。

奥島雄一(昆虫担当)

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp



「パオちゃん's EYE」  
は博物館ホームページでカラーで見られるよ!

